

アスパラガスの立茎前後の管理について

R6.2 アグリ技研(株)

1. 立茎について (ウエルカム・ハルキタル)

◎立茎は夏芽を考慮して決定しましょう◎

項目	若年株 (1~2年)	多年生株
時期：日数	収穫開始後 20 日前後	収穫開始後 35~45 日前後
茎の太さ	茎径で 1.0~1.2 c m程	茎径で 1.2~1.3 c m程
立茎時収穫量	日量 7~10kg/10a	日量 7~10kg/10a
立茎数 (㎡)	15 本前後 (茎の太さで増減)	18 本前後 (茎の太さで増減)
茎の間隔	茎間を広く間隔を取る	10 cm程の間隔を取る
茎の品質	円形で真直性の茎	円形茎で 25 cm程まで同茎
水管理	通常の灌水処理 (一斉揃える)	通常の灌水処理
ハウス温度	やや低温 (極力適温管理)	やや低温管理
立茎揃期間	立茎後 20 日前後	立茎後 30 日前後

*ハルキタルの若年株の立茎はやや早めに太物を残す。

立茎作業は、夏芽の品質収量を大きく左右しますから開始時期などは遅く成らない様にします。最近の夏場の天候は、猛暑傾向の影響で夏秋芽の細茎傾向と茎葉の損傷も多くなって来ていますからやや太茎の選定と立茎後の茎葉の管理 (アバレ対策) は十分に取らしましょう。

2. お礼肥 (立茎前の春肥) 10a 当り施肥例

肥料名	施肥量	備考
鮮彩美人 643	6 袋	有機 100%、成分 6-4-3
珪リン酸	2 袋	P・K、ミネラル分の補充肥料
豊作源	10 袋	活性炭・バチルス菌・カニガラ有機肥料
カウボン	2 袋	有機リン酸、発根促進効果
腐植酸	3 袋	C E C・腐植の向上、土壌団粒構造改善
珪酸苦土鉄	5 袋	微量要素、苦土、珪酸で根張り草勢維持対策

*立茎前には、春肥として改良材を主として施肥を行って親茎の新根の発育を促進する様にしましょう。

①立茎時の発根促進のために「アミクエ」5~10 kgを月 3 回の灌水処理。

②節間の徒長防止に葉面散布「PK ゴー」2~3000 倍、灌水は 300 g 処理。

3.立茎時の有機物（堆肥）の施用での夏芽品質向上対策

地表面から燐芽群までの深さを 12～15 cm前後にすることで「燐芽群周辺の温度上昇抑制や萌芽伸長時の若茎の水分を維持」夏芽の収量・品質は向上して来ますので春芽時期より地下茎までを 5 cm程深くします。

このために立茎前の春肥時に完熟堆肥等を施用しましょう。

4.防除（ポイントは立茎直後の予防散布で 10 日置きの防除）

斑点・褐斑病、茎枯病・・・「立茎後 60 日の予防防除で決まります」

ダニ・アザミウマは、周辺の雑草や乾燥状況で対応します。

（ハウス周辺に赤ネットや反射マットも効果的）

5.水管理（夏場は水管理次第で増収・品質向上は決まります）

立茎前後は乾燥する為に、夕方にかけて十分に水分を与えて吸収根の活性を高め茎葉維持に努めます。

立茎後の乾燥時には、少量多回数灌水で生産量を増します。

多雨時には灌水を控えて品質を良くしましょう。

（梅雨時の排水対策も事前に行いましょう）

6. 茎葉整理（茎葉整理の時期は収量や品質に影響します）

摘芯作業を前進化させることで、夏芽の増収に大きく影響しますので、目安は立茎後 30 日前後（二次側枝の未展開時）の晴天日に 110～120cm 前後に鋏等で斜めに摘芯します。（PK ゴー2～3000 倍処理）

摘芯位置までの枝数は、15～18 枝確保すれば十分で過密にならない様にして立茎後 100 日程すると二次側枝の動きも活発になるので PK ゴー2000 倍の葉面散布を 3 回程行います。

（夏場は、茎葉の姿を縦長型に仕上げ採光を良くする）

ウエルカムは、下枝は地上部から 60cm 程、摘枝・葉は垂れて日陰になる枝や葉のみ先端や通路面の整理を行います、極端な整理は、逆に収量や品質低下の要因となります。

摘芯後に出来るだけ早く茎葉の整理を済ませ、出来れば 5 月中旬までに仕上ると同時に PK ゴーの葉面散布を行うことで茎葉も硬く静菌作用にも効果的とされています。

ハルキタルは下枝の発生位置も高いので摘芯の高さは、120～130 cmとして枝数は 15 前後を確保しましょう。